

## 令和 2 年度に実施予定の調査検討の方向性について

デジタル MCA システムの移行により生じる周波数（検討対象周波数：845～860MHz 及び 928～940MHz）を用いて、全ての提案を希望通りに実現することは困難であることから、提案内容毎に使用希望周波数や既存の無線システムとの共用の可能性等を踏まえて精査を行った結果、令和 2 年度に実施予定の調査検討の内容については、以下のとおりとすることが適当である。

現在 RFID 用に割当てられている周波数に連続する 928～940MHz 帯の利用を希望している、「LPWA システムの双方向化」「パッシブ型 RFID の利用拡大」「IEEE 802. 15. 4x 方式による IoT 無線通信システム」「IEEE 802. 11ah システム」「無人航空機等の位置情報共有システム」については、必要な要求条件を精査した上で、当該周波数帯を共用することを前提とした場合の、適切な周波数割当や周波数共用技術等に関する検討を含め、他の既存の無線システムとの共用検討など必要な調査検討を行うことが適当と考えられる。

845～860MHz 帯の利用を希望している「3次元屋内外測位システム」については、必要な要求条件を精査した上で、同じく当該周波数帯の利用を希望している「LPWA システムの双方向化」や「IEEE 802. 11ah システム」等の、他の無線システムとの周波数共用に関する検討を含め、他の既存の無線システムとの共用検討など必要な調査検討を行うことが適当と考えられる。

「携帯無線通信システム」での利用については、検討対象周波数が 3GPP（携帯電話の民間の国際標準規格の策定等を行うプロジェクト）で標準化されておらず、既存の基地局設備や携帯電話端末が対応していないなど、導入に向けた見通しが定かでないことから、調査検討を行う前に、提案者において当該標準化の見通しを明らかにすることが必要と考えられる。